キャラクター名
折木翔子（おりき　しょうこ）

プレイヤー名

シンドローム	バロール ブラックドッグ	ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	教師
オプショナル		年齢	32	性別	女性
覚醒	償い	衝動	嫌悪	初期侵食率	41 %
出自	兄弟	経験	記憶喪失	邂逅	友人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	1	2			5
感覚	2	0	1			3
精神	3	0	0			3
社会	1	0	0			1

HP	54
行動値	9
(非装備時)	9
戦闘移動	14
全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	3		知覚			意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
アームブレード	白兵	5r+3	3	9		ｲﾆｼｱﾁﾌﾞﾌﾟﾛｾｽにｵｰﾄｱｸｼｮﾝで装備。対象のG値-5

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
レザージャケット	4	2			
アーマースキン		4			HPダメージが適用される直前に使用。HPダメージを1D点軽減。1シーン1回まで。

合計装甲：	6	合計回避：	0

所持品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
折木奏（おりき　かなで）	P　純愛	N　恥辱		
槙田学（まきた　がく）	P　執着	N　悔悟		
敷島あやめ	P　同情	N　偏愛		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4	残り財産P： 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
コンセントレイト：バロール	2	2	ﾒｼﾞｬｰ	ー	ー	ー	ー	
効果： C値-LV（下限値7）								
ハードワイヤード	2	ー	常時	至近	ー	自動	ー	
効果： ブラックドッグ専用アイテムLv個常備化。基本侵蝕率+4。								
ｸﾞﾗﾋﾞﾃｨﾃﾘﾄﾘｰ	3	ー	常時	至近	自身	自動	ー	
効果： 最大HP+[Lv×7]。基本侵蝕率+4。侵蝕率でLvUPしない。								
マグネットフォース	1	2	オート	至近	自身	自動	ー	
効果： カバーリングを行う。行動済みにならない。1メインプロセスに1回まで。								
グラビティガード	3	3	オート	至近	自身	自動	ー	
効果： ガードを行う際使用可。ガード値+LvD								
イオノクラフト	1	1	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	ー	
効果： 飛行状態で戦闘移動。移動距離+[Lv×2]m								
瞬速の刃	2	3	ﾒｼﾞｬｰ	武器	ー	対決	ー	
効果： 判定D+[Lv+1]個。								
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

とある高校の数学教師。
現在の高校には５年前から勤務しており、その前は別の高校に勤務していたが、その頃の記憶がほとんどない。
自分の教え子は命に代えてでも絶対に守らなければならないと思っている。本人はそれが普通であると思っているが、傍から見るとその執着心は異様。

☆失った記憶について
６年前。ある日の日曜日。出かけていた彼女は教え子である槙田学とたまたま遭遇する。彼は成績が特別優秀というわけではないが、授業を真面目に聞き、わからないところは積極的に聞いてくる素直で勉強熱心な子だった。その日は他愛ない話をした。これからどこに行くのかとか、そんな話。
「先生、それじゃあまた明日」
分かれ道。彼はその言葉を残し、彼女の行先とは別の方へ歩みを進める。その姿を見送った後、彼女も歩き出した。その時だった。
衝突音。悲鳴。それは、彼が進んで行った方角からだった。嫌な予感がする。考えるよりも先に身体が動いていた。
事故だった。交通事故。暴走した車によって何人もはねられていた。その中に見知った姿があった。さっき見送ったばかりの姿が。ただ、その身体はありえない方向にひしゃげていた。
――もう少し彼と一緒にいれば。もう少し彼の姿を見ていれば。こんなことにはならなかったのでは。
そう後悔すると同時に、彼女は”何か”に目覚めた。それが、オーヴァードとしての”覚醒”だった。しかし正気を保てなかった彼女はそこで一通り暴れまわった後、そのまま意識を手放した。
次に目覚めたとき、病室のベッドの上だった。しかし、彼女は何も覚えていなかった。UGNの管轄下にあるこの病院で、彼女が記憶を失っていることに気がついた彼らは、彼女が元からUGNに所属しているオーヴァードであると嘘の記憶を教えることにした。記憶を失って力の使い方を忘れているだけだと。彼女はそれに特に違和感を覚えることもなく、別の高校（※現在の高校）で教師を続けながらもUGNとしての仕事をこなしている。